

こんばんは、こんにちは、おはようございます。天地成行です。「みんつど」50号はなんと延長戦に入り、三回にわたってしまいましたー。もう皆さんもこのお祭り状態についてくるしかない！二ページ編成でお届けします。それでは、天地成行の四人の恩人の最後の大橋広宣さんの寄稿からどうぞ！

「約束」と「銀河鉄道999」

四恩人寄稿 マニィ大橋（大橋広宣）さん

僕は、映画を作ることに関わったり、紹介していることをなりわいの1つにしていることもあって、これまで物凄い数の映画を観てきたが、困る質問が「今までいちばん良かった映画は？」である。

そんなの、1本に絞れる訳がない。100本選ぶ方がまだ楽だ。一度そう言われて、何本選べるかあげていたら、何と300本選んでしまった(笑)

さて……と書きつつ、還暦を前に、今まで観てきた映画の中で、ふと心に浮かぶ印象深い映画は何？と自らの心に聞いてみると、素直に出てくるのが1972年の松竹映画で、ショーケンこと萩原健一と岸恵子が主演した斎藤耕一監督作品「約束」と、1979年のアニメ映画「銀河鉄道999」だ。

「約束」は、殺人罪で服役中の岸恵子演じる女が、母親の墓参りに向かうため仮出所し、刑務官と乗っている電車の中で、若い男と出会って恋に落ちる、という物語である。

過去のある女が、偶然出会った年下の男の求愛に心を動かされ、刑期を終えたら会う「約束」をするが、実は男にも事情があって……というなかなかヒリヒリした展開で、ほとんどのシーンが電車の中で、日本海の冷たい空気感もあって、どん底状態にある主人公の男女の「どうしようもなさ」と、お互いに惹かれ合うことで生まれるわずかな「希望」に心が震える、名作中の名作だ。

僕は脚本を書くこともあるけど、煮詰まると必ず「約束」を観るようにしている。「人の痛み」をこれほど感じる映画も珍しい。

で、脚本は青春映画の傑作をたくさん残している石森史郎さんなのだが、実は劇場版「銀河鉄道999」も石森さんで、「約束」に大感動したりんたろう監督が「『約束』のテイストで書いて」と依頼したのだ。だから「999」は「約束」と物語の構成がとてもよく似ていて、岸恵子をメーテル、ショーケンを鉄郎に置き換えると、実は「そのまんま」だったりする。

僕は中学生の時に劇場で観て以来「999」も様々な節目で観返してきた。



「約束」も「999」も「旅」の中の「出会い」を描いている。人と人との出会いは偶然のようであり、実は全て縁とタイミングで必然である、と言ったのは松田優作さんだが、人生もまた「旅」であり、そこで生まれる数々の必然の出会いがあってこそその「旅」であり、「人生」である、と切に思う。

長々と映画の話を書いてきたが、僕と天地さんとの出会いもまた、必然なのだろう。近くなったり、疎遠になったり……だけど、何となく惹かれ合って、今もこうして共に「旅」をしている……そんな感じがしている。

そんな「旅」の途中で生まれた僕らの対談本が、これまた不思議な「タイミング」で出版されて全国各地で読まれている、と思うと、つくづく人と人との出会いは「縁」である、と実感する。

そんな、僕が愛する映画「約束」の斎藤監督が、晩年、日本の農業をテーマに脚本・監督・製作を手がけ、遺作となった映画「おにぎり」を、天地さんが新聞記者時代に応援し、斎藤監督とも取材を通してお世話になった、ということもまた、縁とタイミングだなあ、と心から実感するのだ。（映画コメンテーター）

見つけたら俳句、感じたら俳句

思わず呟いたら俳句になることがある。或る日曜日、次女の家を訪ねた。玄関に入ると、四歳の孫娘が息せき切ったように言った。

「じいじい、じいじい、あのね。今朝ね、カーテン開けたらちようちようが来ていたよ」

それを聞いて俳句だと思った。

カーテンを開けたら蝶が来ていたよ

もし、これが、

カーテンを開けたら春が来ていたよ

だったらすごいのかなあ、なんて思ったりした。

その後、姉である四年生になったばかりの孫娘と団地を散歩していた。

「ねえ、じいじい、あれ見て。草むらの中にいっぱいチューリップが咲いているよ」

「あつ、本当だ。草も凄いがチューリップがきれいだね。草に負けてないよ」
赤や黄色をはじめとし色とりどりの、しかも何種類かのチューリップが雑草の中に見事に咲いていた。

「郁美、今、草むらの中にいっぱいチューリップが咲いていると言ったね。これ、俳句になるぞ。いいか」

草むらの中にいっぱいチューリップ

俳句雑誌『山彦』主宰 河村正浩

すると指を折りながら

「あつ本当だ。ね、じいじい、へ草むらの中に元気なチューリップでもいいね」

「おつ、郁、うまいぞ。おじいちゃんと一緒に俳句しないか」

しばらく考えていたが、

「したくない」

「……」

期待は見事にはずれたが、四歳は四歳なりに、四年生は四年生なりに春を感じとっている。

余談になるが娘の通っている小学校へ、三ヶ月前の一月に、三年生四クラス、俳句の出前授業を行った。孫も三年生の時に俳句を習ったかもしれない。

情報化時代だから 俳句を趣味に

※河村正浩先生に学んで俳句ごっこをしてみませんか? 『山彦』の会員になることをおすすめいたします。以下のリンクに先生の連絡先もあります。情報化時代だからこそ、四季を大切に句に落とし込む。世界に誇る、俳句文化の担い手になろう! (弟子の天地成行より)

日刊新周南の記事

<https://www.shinshunanan.co.jp/news/culture/kudamatsu/202308/030192.html>

天地成行の母・はるみの ライフヒストリーに感想の

小森(天地成行)さま

ごぶさたしております。

暑い日が続いていますねー。ちゃんとお返事できずすみません……。

でもいつも「みんなつど」見てますよ。

今回はおかあさまのお話、胸に沁みました……。うちの妹も統合失調症で、当時は同居の母親、父親が毎日が抜けなくてほんと大変だったのを思い出します……。

とにかく子供が心穏やかであればそれでいい……。苦しまないでいてくれるだけで……とそんな気持ちだったんじゃないかと思えます。

そして、「みんなつど」を出すことでたくさんの方が救われている事実……。ゆるくつながっていることの重要さを感じます。どうぞ深呼吸しながらこの夏はゆるりといきましょうね! (学校法人 新潟総合学園 新潟医療福祉大学 心理・福祉学部 社会福祉学科准教授 原口彩子)

※原口先生は、心理学的見地から農福連携などの研究をされていて、とても面白い取り組みをされています。またそれもご紹介したいですね! (天地)

思わず 駭け込む みんなつど 第50号



大家の雑学